

新しい夜だから～新二島杯スタート

- 第1回 23年10月30日 「Once more」 バチエラー組
- 第2回 24年 2月28日 「信義誠実」 デンター組
- 第3回 24年 9月17日 「Global and Local」 百万石組
- 第4回 25年 3月10日 「ローカル」 ひとし組
- 第5回 25年 9月22日 「夢、ひとつぶ」 ホモイチ組
- 第6回 26年 2月23日 「おもてなし」 テラボン組
- 第7回 26年 9月28日 「マルソー」 のぶりん組
- 第8回 27年 3月29日 「継続は力なり」 みちる組
- 第9回 27年10月25日 「大阪マラソンをブッ飛ばせ」 たもつ組
- 第10回 28年 2月28日 「コシケレイリふたしま」 ポブ組
- 第11回 28年 9月11日 「たっすいがは、いかん」 ピッコロ組
- 第12回 29年 2月26日 「ごっくん」 アニキ組
- 第13回 29年 9月24日 「One for all」 ヤーマダ組
- 第14回 30年 2月25日 「All for one」 アグリ組
- 第15回 30年 9月 9日 「Loverly」 台風被害で中止
- 第16回 31年 2月24日 「一度」 エリ組
- 第17回 31年 9月 1日 「ワールドワイド」 アイルランド(おっち一組)

♪逢いたくて 逢いたくて どれほど帰りを待ち焦がれたか♪
♪濡れた服を脱いで そばへおいでよ 悪いのはこの僕だった♪

第1回～復活

20回でピリオドを打った二島杯。役所対応、会場確保、開催すればドタキャン対策と難問を抱え、大会継続が困難と判断し、10年20回という区切りでひとまず休憩と思いました。けれども、楽しく羽根を打てる空間を構築するのが、私にとってのライフワークと考えて、形はどうあれ、参加人数が少なくなろうとも、可能な限り大会を継続しようと決意しました。

決意後の最初の大会は、こりやまた行政との兼ね合いで苦労の連続。問題を一つ一つクリアしてなんとか会場確保。内助の功というか、実際に役所の窓口対応の裏代官の苦労は並大抵のものではなく、「筆舌に尽くし難い」と表現するのが最適かと思えます。



惜しまれつつも10年の歴史にピリオドを打った二島杯。バド好きの皆さんと楽しく一日を過ごせる至福の空間が忘れられなくて…もう一度開催する事にしました。イベントの基本は、まず主催者が楽しむ、スタッフが楽しむ、そして参加の皆さんに楽しさを伝える事ですから、大会もそんな精神で開催したいと思っています。今回のテーマは「Once More」ズバリ、もう一度を意味します。

そんな案内で新二島杯として募集したところ、周辺地域の大会や、競馬の天皇賞、大阪マラソンと人気イベントがひしめく中、参加人数92名と善戦。いや、それだけ集まってくれただけでもありがたい事です。

大会前日、ドタキャンが続いて仕上げた書類を作り直すという状況に陥って気が遠くなり、当日も時代錯誤の役所風を吹き散らし市民を小馬鹿にするのが趣味としか思えない係員相手に怒り爆発。どうして楽しい事をやろうとする人が、嫌な思いばかりしなきゃいけないのか、天は我を見放したのか～などと珍しくマイナス思考でいざ本番。



体育館に入れば、指示出す前に動いてくれるいつものスタッフ。市民プラザ体育館に6面のコートをはって、本部席を設置。楽しく一日を過ごしたいと思って次々と集まってくれる参加の皆さんの顔を見れば、使命感がムクムクと湧いてきます。開会式、二島クラブの会長挨拶、地域通貨「蓮」の紹介、ルール説明、キャプテン紹介とセレモニーを終え、キックオフ。



今回は24チームによる団体戦で、コートに入れば熱い戦いが繰り広げられます。主催者チームでは、ペアを組んだチエちゃんから「今日はいつもと違ってビシバシ、スマッシュ打っていますね！」なんて言われて『そりゃ、朝から嫌なことあったから、怒りを羽根にぶつけてるんだよ！』…って、絵に

描いたようなスポーツによるリフレッシュ。

好みの男性にカッコイイ自分を見せようと張り切るホモイチ。



経験豊富で粘りが身上のシミ姉さんに指導を仰ぐ高校生のシーちゃん、ハイタッチを要求する無礼者のマイマイ。

トモちゃんは、身重の奥様とその姉(なんと名古屋から来てるそうです)が応援する中、高校時代ペアを組んでいたテラボンと対戦。当時の顧問の先生が見たら、感動ものでしょうね。

伊勢に転勤した戦場カメラマンのヒロさんは、翌日有給を取って大会参加。大会の記録をフィルムに残していただきました。(今回の写真もヒロさん撮影です。)お勤めの企業の人事担当者殿、これ程の優秀な人材を地方に配置しておくのは、企業として大損ですから、一日も早く門真の本社に戻してあげて下さいな。

別のコートでは、同じオレンジ色のスタッフTシャツを着た「カントク&弟子の嫁ペア」VS「越後屋&裏代官ペア」..強烈なスマッシュ合戦、テクニック合戦に応援の歓声が聞こえます。

「ビシッ！バシッ！」「ヤホヘ！集中！」と組み合わせの妙から生まれた頂上対決に場内の注目が集まります。



予選を勝ち抜いたのは、ウエストサイドからは、コウモン様御一行と越後屋集団で決勝はチーム・コウモンを結成。イーストサイドからはタッキーグループとエコトラ次女軍団でチーム・パチェラーを結成。結末は、眠りから覚めた最年少参加の次女とその力を引き出した兄さん姉さんの団結力により、パチェラー組に軍配が上がり、ノーサイドとなりました。



そんなこんなで、お楽しみいただけましたか？

いつものセリフに手応えのある反応。今回は苦労が大きかった分、達成感も強いと言うか、同じ思いの仲間が集まって、1日楽しく羽根を打つ喜びを味わえただけで嫌なことも吹っ飛んでプラス思考に変わって、こんな大会を続ける勇気をいただきました。

どこまで続くかわかりませんが、次も開催するつもりですから、地域のバドミントン好きの皆さん、ぜひ、新二島杯にお付き合い下さい！

一応、2012年2月26日で申請していますが、確定次第、詳細をお知らせする予定です。

平成23年11月2日記

第2回～コンビネーション

門真市民プラザで熱い戦いが繰り広げられる、地域バドラーの祭典「新二島杯」

門真市在住者・在勤者中心にその友人・親族まとめて大集合。今回は、他の地域・連盟等の大会から、ルミエールホールで開催された「第1回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト」などという興味深いイベントなどがひしめき、参加人数86名と苦戦を強いられましたが、なんとか24チームに分けて、世界で唯一「地域通貨・蓮」が使える大会として、皆さんと共に羽根を打つ喜びを味わいました。



テーマは「信義誠実」

ドタキャン対策から選定した結果、期限として提示した3日前以降のキャンセルはゼロ(病欠の人は、代理を立ててくれました)で大会前日ゆっくりと睡眠を取ることができました。

今回、企画の段で参加者やいつものスタッフが集まらず相当頭を悩ませましたが、「We are シン

セキ！」という門真出身の文化人のスローガンを思い出して、スタッフ不足は参加の皆さんで補うという「みんなで作る大会」へとシフトチェンジ、主催者側と参加者側のコンビネーションの妙で熱い大会を創り上げました。



「コンビネーションって大切！ローテーション、球送りもそうだけど、飛び込んで食らいついて繋いでペアをその気にさせる。それって大事な事よ！！」

久々登場、全身筋肉のタカコ姉が、お代官様の戦う(飛び込む)姿を見て称賛してくれました。今回のキーワードとなったのが、タカコ姉のこの言葉。

凍える程の寒さの中、早朝より駐車場係をしてくれたテラボントモチンの泉州出身コンビ、受付係も青年協会公認の美人お母ちゃんコンビが素敵な笑顔で動めてくれました。大会進行も二島のランドマークのコウモン様と二島スマッシュ合戦の好敵手のひとし君の社会人Bチームコンビでスムーズに。セレモニーで笑いを取れず滑った時は、芸人殺しのチエ&ホンゴに向けてネタを振って助けて貰い、お揃いでトロンとしているマロ親子が目に入れば平和な日本に感謝できます。

エコトラ姉妹は大活躍。次女はプレーの合間に体育館に飛び散った羽根をマイビニール袋に拾い集めて環境美化に貢献、長女はお受験から解放されチーム優勝に貢献。ザッキー夫妻は決勝で対決。世間相場か家庭の勢力図式通り奥様が旦那さんをノックアウト。優勝も、最後に合同したデンター&イシちゃんコンビ。組み合わせの妙かも知れませんが、普段からつるんでワルしているコンビですから気心が知れて、ダブルスのコンビネーションも最高だったのでしょうか。

さてさて、次回はどんなコンビネーションで大会が構築されるのでしょうか？



追伸・・・タカコ姉も飛び込みホドホドにしないとケガしますよ！
次回も、皆さん揃って元気に羽根を打ちましょう！！

第3回～誤算

バド好きの皆さんと楽しく一日を過ごせる至福の空間を構築し続ける新二島杯。今回も地域密着イベントを目指して、継続します。

イベントの基本は、まず主催者が楽しむ、スタッフが楽しむ、そして参加の皆さんに楽しさを伝える事ですから、大会もそんな精神で開催したいと思っています。

今回のテーマは「Global and Local」地球上でも認められる地元門真の大会を志します。

・・と募集した第3回は大誤算。大会の十日前にして申込者40名弱で、20チームによる団体戦開催とするなら、個人戦になってしまいまなかな。

周辺の大会と重なってか、連休の最終日というのが影響したのか、はたまた原油価格高騰のおおりにか、政権与党の外交的手腕に問題があるのか、異常気象が左右したのか、EXILEなるダンシングチームが携帯電話ファミリーの娘を犬のお父さんから略奪したせいか明らかではありませんが、参加者が集まりません。



主催者としては、この危機的状況にも関わらず参加表明いただいた少数精鋭の皆さんと共に楽しい時間を共有する方法を考える事に専念しました。チーム編成、試合形式、賞品、勝者判定方法など思案して、正直、暗礁に乗り上げた時に、日頃は雰囲気盛り上げるだけで全く役に立たないけど、共に香川県を愛する仲間として行事に参加してくれるデンター君がなんと12名も連れて参加表明。周辺サークルにギリギリまで調整に励んでくれた常連さんなどが、土壇場の参加表明で、最終的には参加者65名まで膨れあがりました。目標の120名には及びませんが、8名8チームという構成で、完全決着の新ルールを構築して当日に臨みました。



当日の進行は、功労者のデンター君と、新婚ホヤホヤのテラボンに任せて、お代官様も久々のキャプテン復帰で優勝を目指します。この二人の予想以上の働きで、見事予定通りの時間で仕上がりました。試合は白熱。大会の一番星・越後屋に全力に向かっていく各チームのエース達、腕が上がりなくなるまでスマッシュを打ち続けたアルソックさおり、大会初出場でハッスルしたコスメおかピョンは個人賞をゲット。接戦になれば「絶対勝ちますよ！」と言って自滅したリンちゃん、マロも眉毛を飛ばしてチームに貢献。社会人Bチームの面々も、今日は気楽に羽根を打って汗を流しています。

優勝は、申込み番号65番のダイスケ君のチームの元へ。今回のドローの場合の決着方法のルールで見事、勝利を引き寄せました。まあ、午前中全勝のデンター組の連続優勝をストップしてくれた事には感謝しますが、たまたま同じチームに配置した仲良し二人組のチエ&ホンゴに、たまたま賞品を持って行かれたのは悔しいです。けれども、キャプテンダイスケにせよ、チエ&ホンゴ、合宿の星・手相占いの大家に、生意気にもスマッシュひとし君の息子まで含めて、本当に二島杯が好きで集まってくれたメンバーで編成されたチームが優勝してくれて嬉しく思います。次は、お代官様の番・・・かな？

平成24年9月21日記

第4回～ローカル

12年の歳月、悪代官VS越後屋で続けてきた二島杯。開催当初のようにサプライズを用意したり、新企画を導入したり、追加賞品を工夫したり、手書きのポスター類を掲示して、準備だけで精根尽き果たすなんて事もなくなり、大会も円熟期を迎えた感覚です。大会前日も早々に準備を整え、平和すぎて不安になりました。



今回のテーマは「ローカル」

ともかく門真をPRしようと努力してみました。参加総数80名。10チームで編成して、初の勝ち点制を導入してみました。ただし、勝ち点と同じ場合は、門真在住・在職者及び学校卒業者数が多いチームを優位にするルールで開催した結果、3チームが勝ち点同数で、最も門真人が多い「ひとし組」が優勝賞品を手に入れました。

また、来る8月18日に開催する「第6回わがまち門真市民ミュージカル」のPRと出演者募集を兼ねて、その場で申込書を記載した人は、門真人と認めるという特別ルールを設けて、順位を左右する段になって、再度申込みを提示してみました。新二島杯からは、ミュージカルスターが生まれませんように。



大会当日は、ドタキャンもありましたが、テラボン、トモちん、JUN君を中心に、お代官様もびっくりの段取りでスムーズに進行できました。もちろん、越後屋、裏代官、まろさんに、コウモン様、スマッシュひとし君の後方支援もあり、楽しく羽根を打ちたいと思って来てくれた参加された皆様の笑顔で、またまた楽しい大会を開催できたと満足しております。

個人的には、同い年で昨年めでたくパパになったエディーさんが久々に参加、20年来の友人で尊敬するショウゴさんとも賑やかに対戦できたし、社会人でいつもダブルスを組んだケンパパとも入院前日でありながらも元気いっぱい、久々にペアーでコートに入れたし、思い出深い一日になりました。



さてさて、次があるのやら？ 乞うご期待！！

第5回～夢、ひとつぶ

バド好きの皆さんと楽しく一日を過ごせる至福の空間を構築し続ける新二島杯。今回も地域密着イベントを目指して、継続したいと思います。

今回のテーマは「夢、ひとつぶ」・大会前の8月18日にルミエールホールで公演される、門真市民ミュージカルからパワーを貰おうと、このお題目をお借りしました。



こんな案内から、少し控えめ96名を募集したところ、8月末の申込者総数約40名。それまでの募集期間は、市民ミュージカルの本番、業務関連の資格試験などに追われて、月が変われば、年に一度の海外旅行を控えているし、地道に周辺の練習会場で募集チラシをバラまいて営業する暇もなく、頭を痛めていたのですが、タモツさん、デンター君、越後屋グループと青年協会のお母さん方の協力により、当日は82名参加。無事、いつもの大会を開催する事ができました。

今回は、7名構成の12チーム。準備も進行もスタッフや常連さんが把握してくれてたんで、いつも通り主催者は場内を徘徊していました。今回、目を引いたのは、高校生パワー。自分の娘みたいに可愛がってきた、エリ・シーちゃん・エコトラ次女の3人は、現在高校3年生。プレーの上達だけでなく、大会の進行も手伝ってくれて人間的にも上達してるんだな～と勝手に納得。強烈なスマッシュを打つ強豪、ここぞという時にポカミスするお調子者、素直が一番と言っても聞かない楽道家。ヨネックスオープンでも女子高生がシングルスで優勝しているし、バドミントン界の将来は明るくなりそうですね。二島杯でも、そんな高校生達が大会を盛り上げてくれました。

もちろん、老若男女、参加の皆さんも楽しく一日羽根を打ってくれたと思っています。



優勝は、チーム・ホモイチ。チーム編成が良かったのか、当日調子良かった人ばかり集まったのか、ホモイチが好みの男性にエエトコ見せようと奮起したのか、予選全勝。決勝も強豪揃いのチー

ム・ザッキーを3タテで倒して完全優勝。

最高の賞品貰って舞い上がって、スマホを忘れて帰らなければ、最高の一日になったんでしょうね。(ちなみに、お代官様が預かって、ちゃんと本人の手に戻りました。)

さて、次回は2月23日(日)開催予定です。今回来てくれた人、来れなかった人、興味を持ってくれた人、皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。

平成25年9月23日記

第6回～おもてなし

全国のバドミントン愛好者が集う大会、二島杯の開催です。参加いただく皆さんが楽しく一日羽根を打って、汗を流して、笑顔で過ごして欲しいという思いで続けて来ました。主催者・スタッフの心は「おもてなし」・・・手を合わせたくなりませんか？

今回のテーマは「おもてなし」・・・2020年東京オリンピックに先駆けて、いつもの大会を開催したいと思っています。



こんな案内で募集した第6回は、参加者80名。8名構成の10チームに分けて熱戦を繰り広げました。主催者のお代官様は、対戦相手に喜んでいただくのが一番ですから、控えめな勝率でテーマ通りのおもてなし・・・「チームの勝利に貢献しなさい！」などという声も聞こえてきますが、実力通り・・・ですかね。まあ、四国観光協会が認定する四国観光達人として、お接待の心で大会を仕上げてみました。

そのうえ、今回ご協力いただいたのは、「地球思いの働く車。環境と一緒に運びます。」をモットーとする門真の雄、エコトラック社です。地球環境へのおもてなしだけでなく、今回参加の皆さんへも会社のロゴマーク入りの鶏卵煎餅でおもてなしいただきました。社長も社員も選手として参加。大会の華でもある次女も、受験勉強の合間をぬっておもてなし・・・プレーする姿で周りを明るくしてくれました。



今回は、時間を有効に使うという観点から、トークの時間を短縮して(?)試合数を増やしてみました。結果、好き放題の指示を出し無理難題を押し付けても付いてきてくれたテラボンのチームが、負けなしで優勝しました。私生活でも、研究者としての就職で単身赴任。元気モンで、二島をこよなく愛してくれた奥さんのマイマイとの間の愛の結晶が近々産まれる予定で、幸せな人生に、二島杯からのおもてなしを受けてくれたのでしょうか？



また、新米パパのパッパーラ君、前日に入籍したポンジューズの国の二人、専門学校への入学が決まった可愛い娘たち(エリは上手に周りを巻き込んで物事を仕上げます。しーちゃんは、パツキンに染めてビジュアルアップしたけど確実に動いてくれます。)おまけに、素直が一番と言われ続けて一生懸命初キャプテンを努めてくれたバカ息子も抜群(高く評価しているけど天狗になるなよ。)・・・などなど、おもてなししてあげたい人ばかり集まってくれて楽しく一日を過ごせました。

クリオの正ちゃん、越後屋さん、精華町からお越しの皆さん、大東グループに淀川区から来てくれた被害者御一行様、打上げまで付き合っていたいただいた会長、オカポン、コウモン様にヒトシ君、最も怖い裏代官様・・・皆さんのおかげで「おもてなし」は、大成功です。次回も期待できるかな？



平成26年2月24日記

第7回～マルソー

ボンジュール！7月14日、記念すべきフランス革命の日にお届けするのは、バド好きの皆さんと楽しく一日を過ごせる至福の空間、新二島杯開催のお知らせです。

今回のテーマは「マルソー！」

英語ではレッツゴー、日本語では進め、かつての勢いを取り戻そうと、勇ましいフランス国歌のルフラン(リフレイン)部分からテーマを選んでみました。



こんな案内で募集した第7回はドタバタ。社会人大会の都合で合宿を9月の連休に持ってきて、私用公用入り交じり、肝心の二島杯の募集がおろそかになってしまいました。合宿楽日の9月15日の段階でエントリーが50名足らず。史上最少の大会になるかもと覚悟を決めました。

合宿前、学校の梯子を踏み外してから、足、膝、腰と痛みが移り変わり最悪のコンディションで整骨院通い。大会1週間前は、それでも先に約束していた試合に出場して参加者募集。一斉メールにFacebook、ホームページも使って大募集。なんとか63名まで集めて最終期限を切ったら駆け込み申込みが入って73名に。最後は直接交渉で、力づくで80名に広げました。勢いはテーマ通りのマルソーマルソーで大盛況。8名編成10チームでしっかりした大会を開催できました。



当日は、早朝からモルガンさん、スマッシュひとし親子が会場準備。エコトラ社長もお手伝い、ホモイチはホモダチさんと駐車場係。段取りを知っている皆さんが集まってきて大会開催に向けてマルソーマルソー。大口申込みをいただいたデンター君、マッスルさん、体育会系麦酒部長さんの3名には、感謝の意を込めましてキャッシュバック(但し、地域通貨「蓮」ですが)を捧げました。

今回指名したキャプテンは、合宿で共に最高のミルクイウェイを觀賞したメンバーを中心に、信頼できる10名に依頼しました。初キャプテンの伏見のノブリン(その百科事典を上回る知識の豊富さから、チーム名をブリタニカとしました)は、身体を張って勝利に貢献。スタッフTシャツに「飛び込み禁止」って書いてあるのに、メンバーの士気を高めて優勝。メンバーの中には合宿のプチ大会で優勝したコワさんも、その時の賞品のアナ雪タオルで汗をふいて大活躍。粘りの勝利でチームの勝利に貢献しました。

チーム編成に関するご不満等出てくるとは思いますが、各人その日の調子もあるし、相当のノウハウを持って編成しても限界がありますので、今回残念だった人も次回はおいしい思いができるかも。



今回のMVPは、健太のパパ。現代の医学では対処できないほどの大きな病気を気力と体力で封じ込め絶好調でデュースから30ポイントまで戦い抜きました。初めての二島杯から参加して社会人ではお代官様のペアとして共に戦い続け、一時は体育館から消えてしまった人が本大会でしっかりと存在感を示して賞品のTシャツをゲットしました。バドミントンで現代医学をノックアウト。これからも共に楽しく羽根を打ち続けましょう。賞品のTシャツはお馴染「悪代官VS越後屋、飛び込み禁止」のデザインですが、フランス国旗のトリコロールカラーから、赤白青の3色を作成してみました。白地にブルーの文字はいい感じに仕上がりました。

また、今回の仕切りはデンター君にお任せ。お代官様からの無理難題を受け入れて、上手に後輩

を使ってスムーズな大会運営に貢献してくれました。本部席には会長が座って輝きながら後方支援。もちろん裏代官も、会場手配、役所対策、会計に撮影お接待と目立たぬ部分で活躍してくれました。最後は、メインスタッフでお気に入りの「ちゃんこ・ももたろお」で乾杯。次の大会に向けてマルソーマルソー。



参考まで、次回大会は平成27年3月29日を予定しています。興味のある人は、予定を空けておいて下さいね。

平成26年9月29日記

第8回～継続は力なり

羽根打ち一筋40年。「そのわりに上達しませんね～！」なんて声も聞こえてきますが、上を目指すより健康管理、楽しく羽根を打ちましょう。なんて負け惜しみを言い続けてきました。輝ける記録も無く、負けた試合は数知れず、ともかく続けています。

二島杯も試行錯誤を重ねながら、年に2回のペースで開催して28回目。これだけ重ねたら褒めていただけるのでしょうか？今回のテーマは「継続は力なり」そんな主催者が、歴史を振り返り自画自賛。継続は力なりを実践いただける皆様を大募集。



そんな案内で募集した28回は大盛況。96名参加、理想形の8名1組の12チームで無事開催できました。今回は、ボブくん率いる芦間・門真西高校生のスタッフ協力により、スムーズな大会進行になりました。早朝集合して、機材搬入、会場準備、スコアシートの記入から、表彰式のアシスタント、後片付けまでしっかりと手伝ってくれました。イマドキの高校生のお手並み拝見という感覚でお願いし

たのに、期待以上の仕上がりで、「100点満点の120点！」おかげで主催者は、いつも以上に試合に集中できました。いつものスタッフや常連さんもお協力いただき、楽しく運営。これも、継続は力を証明するものでしょうか。



試合は、熱戦が続きます。社会人に登録している「ふたしまAチーム」の強豪にJRグループの精鋭男子、鶴見区からお越しの皆さんに、主催の青年協会のメンバー、土曜の二島小学校の練習に来てくれる面々などなどで、笑いあり歓声ありで、市民プラザの体育館が盛り上がりました。

ウエストサイドは、ここの一番の集中力が光るホンゴ率いるチームが箱抜け。場内ブーイングですが、お代官様夫婦もチームのメンバーです。チーム編成については、エクセルのソート機能を駆使して、パソコンが決めてくれますから、感情が入る余地はないはずですが、珍しく同じチームに配置されました。



イーストサイドからは、現在のふたしまの顔でもあるスマッシュひとし君が箱抜け。メンバーは、スタッフで大活躍の芦間高校のフレッシュな2人に、いぶし銀のリンコーチと強豪揃いで大変です。

決勝は、4つのダブルス。ドロートになればキャプテン対決という完全決着まで。ホンゴ2勝ひとし1勝で迎えた4つ目のダブルスは、二島名物スマッシュ合戦でおなじみ、「お代官様組VSスマッシュひとし君」の対決です。勝てば優勝、負ければ、ペアの相方を変えて続けてもう1試合・・・体力が持つかが心配だったので、集中。いつものスマッシュ合戦を封印しお笑いに走ることなく必死のパッチ。見事、優勝を手に入れました。



主催者が優勝つても大人げないかも知れませんが、優秀なスタッフの皆さんのおかげでプレーに集中できました。また、継続は力で、楽しく羽根を打ち続け、足掛け15年も大会を運営し続けたお代官様夫婦へのご褒美だったかも知れません。

継続は力・お楽しみいただけたでしょうか？次回も、これに懲りず二島杯にお付き合い下さい。

平成27年3月30日記

第9回～大阪マラソンをブッ飛ばせ！

2015年10月25日・・・と言えば、待ちに待った大阪マラソン～！

なんて声も聞こえてきますが、なかなか申し込んでも当たりませんよ。それなら、門真のバド好きの皆さんのためのフェスティバル「新二島杯」に申し込み下さい。たいがいの人が当選しますし、脱水症状とか、足の裏にマメもできませんよ。今回のテーマは「大阪マラソンをブッ飛ばせ」・・・って、相手にもされていませんが、主催者として気持ちだけでも表明しておきます。



こんな威勢のいい案内で募集した第9回。実は、誤算だらけの大騒動。シルバーウィーク期間にラグビー観戦で出かけると決めていたので、旅行前に大会開催する方向で申請したところ、他の優先使用に阻まれて、日程はお役所の指示待ち。テーマも、ラグビーワールドカップから「ふたしまウエイ」とか「One for all」として、一仕事終えて、イングランドに旅立とうと考えていたのに。

旅先では、ジャパンがまさかまさかの南アフリカに競り勝つなんて嬉しい誤算もありましたが、旅行中が申込期間で、また、10月の練習会場が確保できないという誤算。いつもは、大会前の練習会で参加人員を調整して、スタッフを固めて、当日のネタを仕込んで、根回しするはずが、旅行期間を含めて1月半も練習なしで、いきなり本番です。



参加人数の読みもはずれ、記憶違いから参加申込者を忘れ、練習不足で身体は動きませんし、ラケットとシャトルも言うこと聞いてくれず、誤算だらけでガタガタです。

帰国して、可愛い娘2人が参加表明、大会を知っているメインスタッフもギリギリで出場可能、地元の後輩もスタッフを買って出てくれて、無事、参加者みんなで運営する二島杯となりました。これもまた、嬉しい誤算ですかね。



参加者96名。決勝は、ふたしま社会人A優勝の殊勲者「キングカズ」と沖シャトルのキング&クイーンのチームVSタモツさん率いる実力者揃いのチームM家。永年に渡り、大会運営に協力・援助を続けてくれたタモツさんがキャプテンとして初優勝を飾りました。これも誤算？いえいえ、実力ですよ

ね。
今回は、ご参加の皆さんに助けられた大会です。頼りない主催者ですが、これからもよろしくご支援願います。



第10回～コシケレイリ～ふたしま

『お待たせしました』・・・って、「こなえだやったとこやんけ～！」なんて声も聞こえてきますが、第10回新二島杯開催のお知らせです。

記念すべき10回目のテーマは「コシケレイリふたしま」

南アフリカ国歌のフレーズから、コーサ語を和訳すると「主よ、ふたしまに祝福を」という記念大会に相応しい壮大なテーマを掲げました。マンデラ大統領が人々の心をつににしたように、大会も主催者・スタッフ・参加者・ご家族・地域・関係者の皆さんの心をつにして、壮大な規模で開催しましょう。



こんな案内で募集した大会、参加者96名の大盛況。準備段階で、インフルエンザが蔓延。交代要員を立ててくれる人、当日体調不良なのにお詫びを言いに来てくれる人も居ました。今回、チーム編成とコピーも仕上げた後のドタキャンで、逆ギレしてくれた人も居て血圧アップアップ。続いて、負傷キャンセルって寿命が縮む・・・ところがこの方、交代要員として、小学6年生を提示。うちの大会の参加資格は、ルールがわかっていて、楽しく羽根を打てる人でしたら、年齢なんて関係ありません。現に、二島の「ゆるキャラ」も大会デビューは小学6年生、今回は成人式も済ませ立派にキャプテンを務め、大会のランドマークとして輝きを放ってくれています。頼れるアネキに、血圧アップ分の穴埋めをお願いして、最小限度でチーム編成を修正しました。



当日は、頼れるアシマ、ポブくん率いる高校生軍団が会場準備、スコアシート作成、進行補助、最後は後片付けまで仕切ってくれました。主催者のお代官様は、場内を徘徊、コートではプレーに集中できましたし、前日までが嘘のように大会を眺めます。

今回のチーム編成は、ウエストとイーストに特徴を持たせました。若手バリバリの熱い戦い、繋い

で粘るレディースのしのぎ合い、いつものペアーが対峙、同級生が遭遇、などなど。予選ではテーマのある対決ができるよう組んでみました。

参加者も、門真から周辺都市、小中学生、高校生、社会人、主婦、後期高齢者と多彩なメンバーが集結。親子5組、夫婦5組、不倫カップル・同性なんかまでは把握していませんが、テーマ通り、主の祝福(?)のもと、「もっと元気に、もっと笑顔に」なんて、言葉が似合いそうな一日になりました。

今回話題をさらったのは、負傷交代要員として参加してくれた、小学6年生。最初の試合の対戦相手が、お母さん。しっかりしたクリアが打てるし、フットワークも軽やかで、試合だけでなく、主審までしてくれるから、一躍チームの人気者です。今年成人のエリオ姉ちゃんが、妹みたいに可愛がり、お代官様もサーブで、秘密のサインを教えてあげましたし、MVPのTシャツも(当然)貰って帰りました。あやちゃん、また来てね。



決勝は、ウエストからはボブ組、混戦のイーストを抜け出したのは、今回も弾けてくれた、まあこ組。いつものメンバー、いつものシャトル。ふたしま杯に相応しい対戦となりました。

最後の戦いを制したのは、大会運営に大いに貢献したボブのチームです。メンバーもボブにケン、チイと云ういつもの練習会に、最も出席率の高い高校生3人が所属するチームという結果が出たのは、主の祝福だったのでしょか。



それでは、楽しく大会を終えたことを祝して、南アフリカ国歌斉唱。

♪コシケレイリふたしま、マルタカニス、ポンドラーヨ♪

♪イザイミタンダ、ゾーエト、コーシケレラ♪

次回も開催できますように。

平成28年3月1日記

[第11回～たっすいがは、いか
ん！](#)

Back

[戻る](#)
